

1

椎葉村の特徴

(1) 位置、地形

本村は、宮崎県西北部九州山地の中央部に位置し、東は諸塚村・美郷町西郷区、南は美郷町南郷区・西米良村・西都市、北は五ヶ瀬町に、その他は熊本県に接しています。

面積は537.35km²を有し、その約96%は山林原野で占められ、国見岳、市房山など九州屈指の秀峰をはじめ、標高1,000mを超える山々が連なっており、村域の多くが九州中央山地国定公園に指定されています。また、山々を分水界として耳川、小丸川、一ツ瀬川の河川が村内に源を有し、その豊富な水量は水力発電に利用されています。

(2) 歴史・沿革

本村は、壇ノ浦の戦いに敗れ滅亡した平家の残党が隠れ住んだ地の一つであると伝えられています。戦国時代は、向山城、小崎城、大河内城の那須氏の椎葉三人衆と呼ばれる豪族が支配しており、元和5年(1619年)幕府領に編入され、肥後国阿蘇神社神主の管理下に置かれ、明暦2年(1656年)には人吉藩相良氏の預かり地となり、明治維新までその支配に属していました。

明治16年(1883年)に宮崎県に編入されるまで、日田県、人吉県、延岡県、美々津県、宮崎県、鹿児島県と幾度か管轄が変わり、明治17年(1884年)の臼杵郡の東西分割により西臼杵郡に属しました。

明治維新前は、下福良、不土野、大河内、松尾の4つの村があり、それぞれ庄屋を置きましたが、明治5年(1872年)に庄屋制を廃止し戸長制となりました。

明治22年(1889年)町村制発布に伴い、4つの村を合併して椎葉村とし、元の4つの村を大字として村役場を桑弓野に置きましたが、大正4年(1915年)に上椎葉に移転しました。昭和24年(1949年)に東臼杵郡に編入し、現在に至っています。



2

数値でみる椎葉村

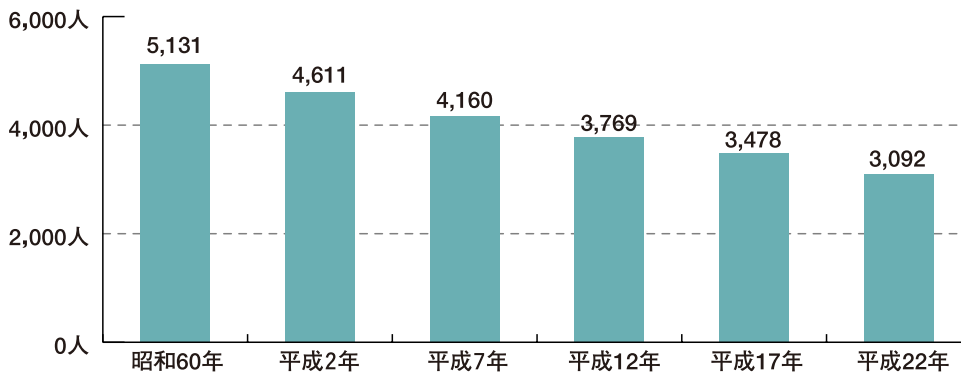
(1) 人口

① 総人口、年齢3区分別人口比

本村の総人口は、昭和60年以降、減少し続けています。

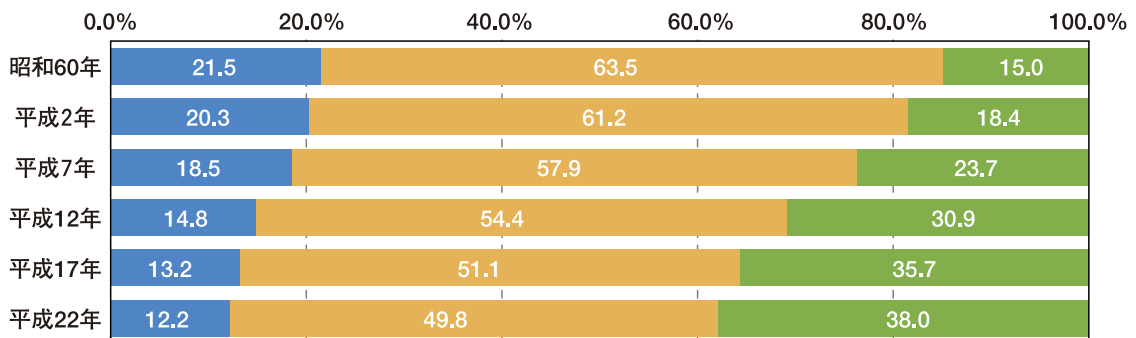
また、年齢3区分別人口比では、平成7年以降、老年人口比（65歳以上）が年少人口比（0～14歳）を上回っており、少子高齢化が進行しています。さらに、生産年齢人口比（15～64歳）も昭和60年以降減少し続けており、今後のさらなる少子化が懸念されます。

■ 総人口の推移



資料:国勢調査

■ 年齢3区分別人口比の推移



資料:国勢調査

②少子化の状況

出生数は減少傾向にあり、「死亡数」が「出生数」を上回っています。未婚率については、女性に比べて男性で高く、平成22年においては20歳代で約8割、30・40歳代で3割前後と、昭和60年以降、未婚率の上昇がみられます。

また、保育園児や児童生徒数も減少しており、学校では学級数も減少傾向にあります。

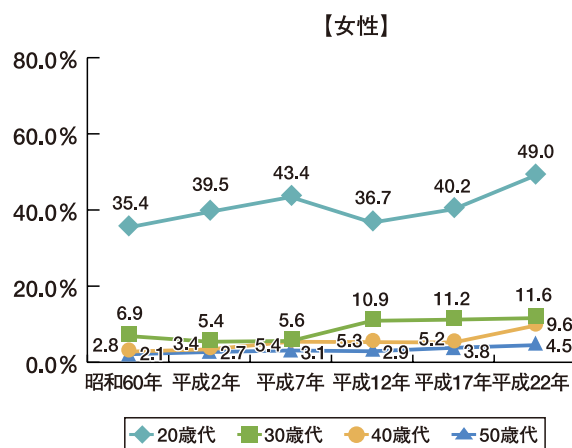
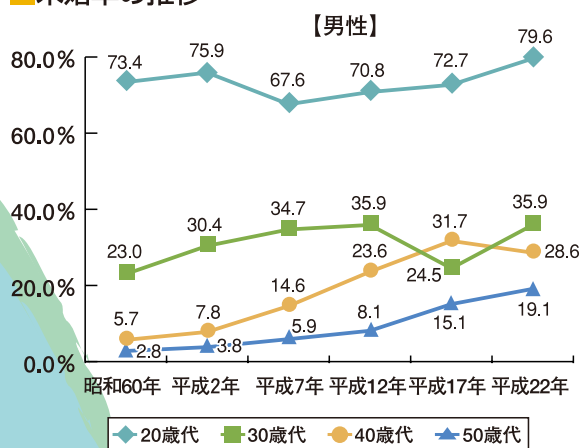
自然動態の推移

単位:人

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
出生数	77	49	41	30	20	23
死亡数	50	46	43	38	47	50
増減	27	3	-2	-8	-27	-27

資料:現住人口調査(各年1月1日~12月31日)

未婚率の推移



資料:国勢調査

児童館・保育所児の推移

単位:人

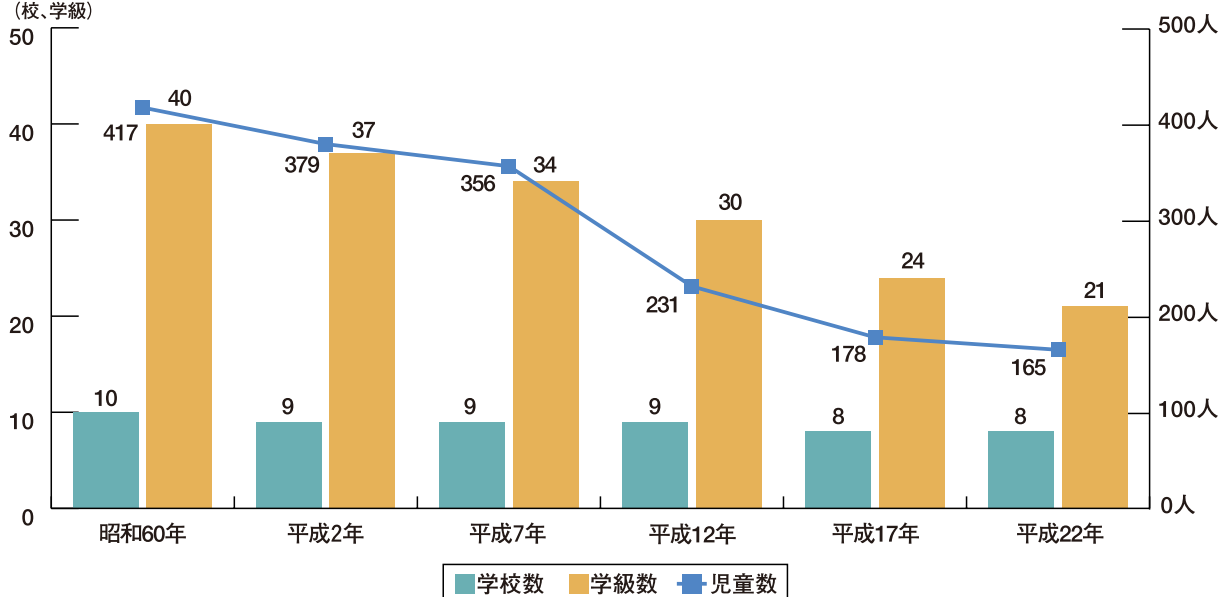
	定員	幼児数						職員数 (H22.4.1)
		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	
上椎葉児童館	40	39	36	33	33	33	21	2
向山児童館	40	17	15	10	13	11	21	2
小崎児童館	40	16	15	11	15	12	6	1
松尾児童館	40	28	26	20	18	18	14	2
大河内へき地保育所	30	-	18	21	6	12	7	1
鹿野遊へき地保育所	30	-	24	12	0	7	7	1
不土野へき地保育所	30	-	-	-	7	3	-	-
合計	250	100	134	107	92	96	76	9

資料:福祉保健課(各年3月末現在)

児童生徒数の推移

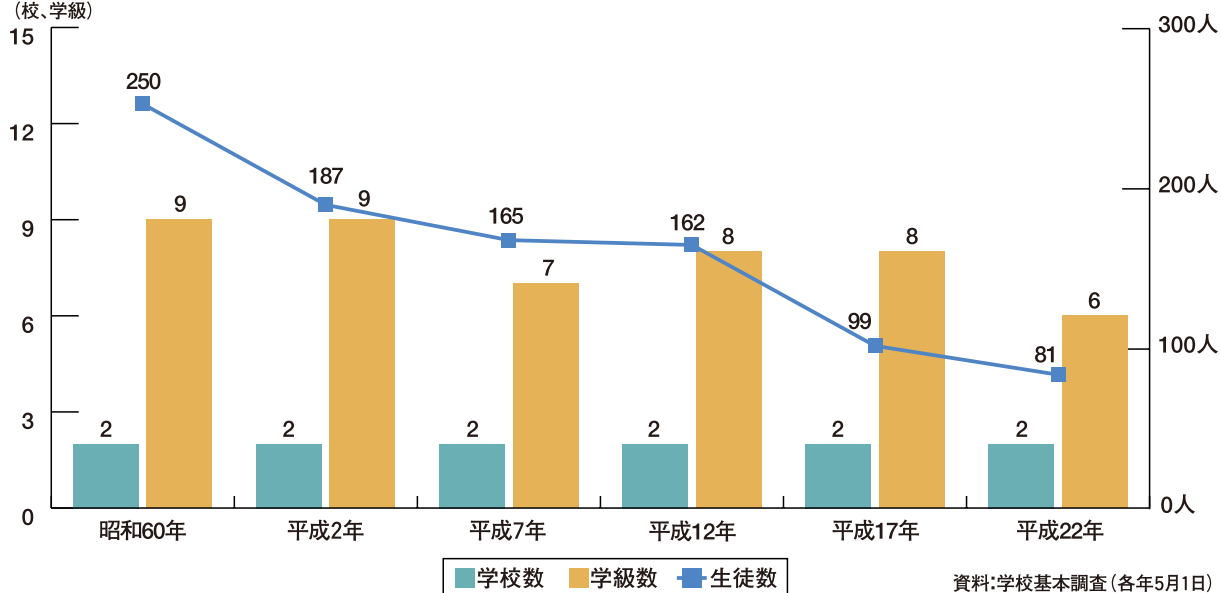
【小学校】

(校、学級)



【中学校】

(校、学級)



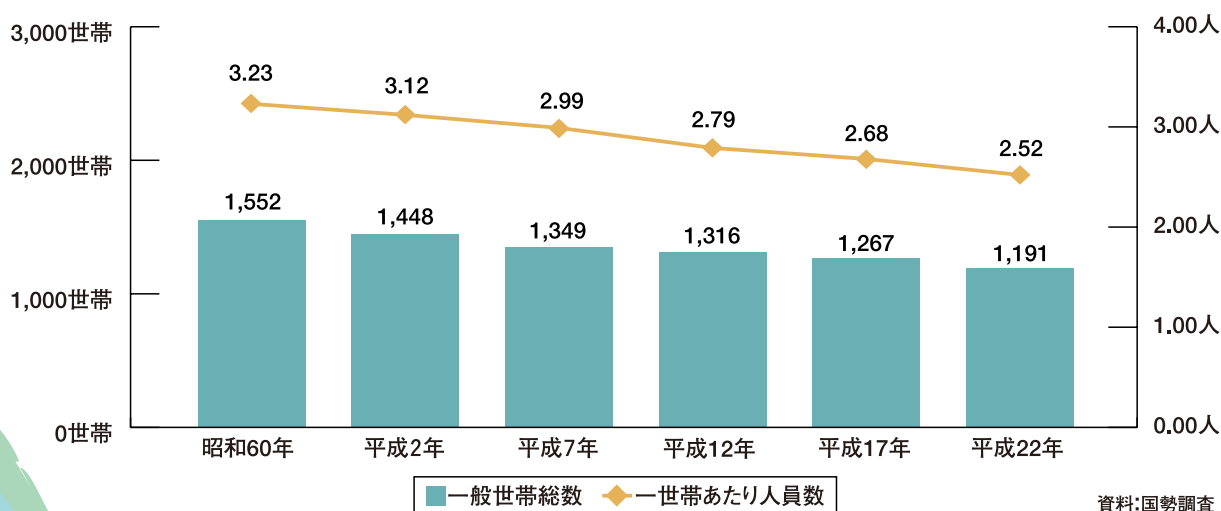
資料:学校基本調査(各年5月1日)

(2) 世帯

世帯数は、昭和60年から徐々に減少しており、25年間で361世帯減少しています。また、一世帯あたり人員数も減少しており、核家族化や一人暮らし世帯の増加が進んでいます。

一方、65歳以上の高齢者のいる世帯は、増加傾向にあり、平成22年では世帯数全体の6割以上が65歳以上の高齢者がいる状況となっています。

■世帯数と一世帯あたり人員数の推移



■65歳以上の高齢者のいる世帯の推移

